日本消化管 Virtual Reality 学会 参加報告

北海道消化器科病院　高林 健

皆様こんにちは、北海道消化器科病院　高林です。今回、平成 30 年 1 月 20 日（土）に東京（千代田区神田駿河台）で開催された、第 1 回日本消化管 Virtual Reality 学会に参加して来ましたので、その様子を報告致します。

会場そばの神田明神

日本消化管 Virtual Reality 学会（Japan Gastrointestinal Virtual Reality Association：以下 JGVRA）は、消化管 CT 研究会（消化管 CT 技術研究会とは別）と、消化管 Virtual Endoscopy 研究会が一つとなり、新たに学会として発足したものになります。会場には消化器内科医や放射線科医、診療放射線技師等が 60 名ほど参加しておりました。第 1 回の大会長である服部昌志先生（山下病院）の開会挨拶に続いて、まず一般演題1の発表がありました。一般演題 1 では主に大腸 CT 検査の前処置の評価、また施設の状況などについて 8 つの演題がありました。前処置に関しては、タギング不良になることがあるバリウムを用いた前処置を、より安定した前処置とするために下剤の内服方法などについて検討された発表でした。今後、学会からはこうした検討やデータをもとに推奨する前処置方法を提示してもらいたいたいと期待しております。

ランチョンセミナーでは飯沼元先生（国立がん研究センター）が大腸 CT 検査の歴史についてご講演され、続いて一般演題 2 の発表がありました。こちらでは大腸だけではなく、胃や小腸などに対する virtual-reality 画像の有用性について、また病変の画像的特徴についての評価、深達度診断のための画像表示法についてなどの発表がありました。個人的に興味があった発表の 1 つに、胃癌に対して撮影された CT-Gastrography の単純 CT 画像を用いて、病変部と正常胃壁の CT 値

の差について検討した発表がありました。実際 CT 値を計測しながら病変を探すことは現実的ではないと思いますが、CT 値を適正に調整してカラーマップで表示することで病変範囲を認識できれば、化学療法の効果判定などには有用かもしれません…？

会場外の機器展示の状況

最後に特別講演として竹政伊知朗先生（札幌医大消化器・総合、乳腺・内分泌外科）が「3D PET/Virtual Colonography が変える Image Guide Surgery」というタイトルで、ダヴィンチ手術システムによる直腸癌の手術の状況などを多くの術中画像を交えてご講演されました。こうした手術をより安全に施行するために、術前検査として施行した大腸 CT 画像は血管像や注腸類似像だけではなく、骨盤腔の広さや恥骨下角の角度など非常に多くの項目を確認すると述べられていました。画像を提供する我々診療放射線技師は、こうした診療科の医師と意思の疎通をはかり必要となる画像についての認識を統一することが重要であることを再認識しました。

次回第 2 回の JGVRA は 2019 年 1 月 19 日（土）に東京で開催予定です。消化管検査に興味のある方は、HP をチェックし参加することをお勧め致します。

日本消化管 Virtual Reality 学会
HP： https://jgvra.jp/index2.html